



(第 23 号)

平成十四年度玉翠会代議員会開催 —創立百十周年記念事業にむけて始動—

平成十四年度玉翠会代議員会は、六月八日(土)午後一時三十分より高松高校五階の玉翠会館ホールで開かれた。

丸谷教頭による開会の言葉のあと、多田野会長が挨拶された。「秋山校長が退職され、母校卒業の溝渕校長が着任された。教育改革が進む中、高松の伝統や高松スピリットを継承しつつ、新しい型

の高等教育の創造に期待したい。平成十五年に創立一一〇周年記念として、祝賀会等々計画しているが、ご理解をいただき、たくさんの方々のご出席をお願いしたい。」と述べられた。

続いて、溝渕校長より挨拶があった。「激動の社会だからこそ、高中の『至誠一貫、卑女』の『雪持笹』の精神に帰ること



挨拶
玉翠会会長
多田野 久

小暑を過ぎ暑さが厳しくなる頃でございますが、会員の皆様方におかれましては、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

玉翠会会長の任を引き継ぎ、五年目を迎えました。この間、諸行事が滞りなく円滑に運営されておりますことは、ひとえに会員の皆様方のご理解とご支援の賜であります。重ねて厚くお礼申し上げます。

今春も新たな四五六名の会員を迎え、わが同窓生は四万八千人に達しようとしています。京阪神晩翠会をはじめ、東京・関西・岡山・徳島玉翠会では毎年盛大に支部総会が開催され、会員相互の親睦が深められておりますことも、実に喜ばしいことでございます。

さて、二十一世紀となり、世界は変化の時代を迎えております。あらゆる領域・分野で改革が進むとともに、新しい型の社会が構築されつつあります。母校におきましては、教育改革が進む中、十年振りの高松卒業の校長として溝渕先生が着任されました。溝渕校長先生は、二年前まで高松の教頭先生として「二十一世紀の高松高校像」(提言)を取りまとめるなど、新しい時代における高松像を念頭に改革を手がけられております。高松の伝統や高松スピリットを継承しつつ、新しい型の高等教育の創造に期待

を申し上げます。玉翠会におきましても、高松第二世紀に入ってから十年が経過しました現在、新しい時代にふさわしい同窓会が求められております。そのために、役員の活性化を図るべく若い層の理事四名の補充と今まで理事のいなかった学年の理事の補充、代議員相互の団結と意識の向上をはかるパーティーの開催、読みやすく、わかりやすく、楽しく、をモットーに会報の見直しも行いました。

平成十五年に母校は創立一一〇周年を迎えますが、学校・PTA・玉翠会が三位一体となって、記念祝賀会、高松文化祭での中・高・女校舎の模型や制服の展示、記念誌の発行、玉翠会員名簿の発行等の記念行事を計画しております。現在、大西大介副会長を委員長として実行委員会を組織し、準備を進めております。会員の皆様の絶大なご支援とご協力をお願いいたしまして、ぜひこの創立一一〇周年記念事業を成功裏に導きたいと願っております。また、これを機会に母校と皆様方を、さらには、皆様方一人ひとりを結びつけながら、ともに二十一世紀の新たな玉翠会を築き上げていくことができますよう真に願っております。

最後になりましたが、皆様方のさらなるご健勝とご発展を心から祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

が大切。その上に「大志細心」の精神(大いなる志を持って、凡事をおろそかにせず)を機会あるごとに生徒に伝え、これからの高松の歴史の上に新しい伝統を加えていきたい。」と述べられた。

以下議事に移り、会則に従って多田野会長が議長に選出された。平成十三年度事業報告、会計収支決算報告に続いて、平

成十四年度事業計画案及び会計収支予算案の審議が行われ、創立一一〇周年記念事業のための特別会計を組むことなどを含めて拍手で承認された。

今年度は役員改選の年にあたり、丸谷教頭より、会長、副会長は全員留任であること、理事については美馬基一理事、津島正弘理事、大西敬理理事、泉和男理事が退任し、後

任に畠山武史様、九富彰三様、中村谷百則様、福家正様が推薦されていること、また理事がいなかった学年から、新しく小島英夫様、亀井正好様、佐々木浩司様、加藤宏一郎様、稲田耕一様が推薦されていることが報告された。

その他の理事、監事も全員留任となり、拍手で承認された。

次に、創立一一〇周年記念事業実行委員長の大西大介副会長より記念行事等の内容や特別会計の使途についての説明と代議員相互の団結と意気高揚を図る「キックオフパーティー」について説明があった。拍手で承認され、審議事項は終了した。

続いて、事務局より「玉翠グローバルアカデミー」と先輩講演会、玉翠会報、会員名簿、会費納入について説明があった。最後に、新理事による十四年度の玉翠会代議員

会を終了した。

若翠滴るが如く讃岐の山や瀬戸の海も夏景色を装いはじめる季節となき、今も「文武両道」と「独立自主」をモットーにしています。現在、全日制が各学年九クラスで二〇八一名、定時制が七四名、通信制が三二五名の合計一四七〇名の生徒たちが、勉学や部活動、生徒会活動等に積極的に取り組んでいます。



栗 若 樟
高松高等学校長
溝 渕 利 博

私は高松高校の昭和四十一年卒業ですが、本年四月に母校の校長として着任したとき最初に目に付いたのは、懐かしい校庭の樟の若葉でした。既に大木でありながら、それでも毎年新芽を出して内から太っていくところとするこの樟は、生徒に対する教育的感化力を意識して明治四十一年に植えられたものと思われ、その堂々たる姿は、今も在校生や卒業生にとって高松高校の象徴的な存在となっています。「くすの木千年、さらに今年の若葉なり」という荻原井泉水の有名な句がありますが、私の役割は、この樟若葉の心を持って、高松高校の良き伝統を継承しつつ、教職員や生徒諸君とともに、二十一世紀の新しい伝統を創造していくことではないかと思っています。

高校高校では、平成三年の新校舎改築に当たり、「教える学校」から「学ぶ学校」への転換を図るとともに、平成九年からは六十五分授業、そして学校完全週五日制が実施される今年からは二期制に移行するなど、時代の変化に対応した教育指導体制を順次整えてきましたが、その精神は高中の「至誠一貫」と県女の「雪

人とキカイのことを考えている会社です



TADANO

幸せと感動を伝える創造企業

株式会社 タダノ

取締役会長 多田野 久

〒761-0185 高松市新田町甲3 4 番地 TEL 087(839)5555(代)

玉 翠 会 後 員

本部

名誉会長
綾田 整治顧問
大西 潤甫顧問
岡野 美代子会長
多田 野久副会長
岩部 隆副会長
和子副会長
平井 温子副会長
南 繁文副会長
繁文

支部

(東京玉翠会会長)
辻 義文(副会長)
松浦 三知子(副会長)
藤井 富弘(副会長)
永野 精子(事務局)
大西 昭一郎(関西玉翠会会長)
藤井 義弘(副会長)
大野 坦(副会長)
島田 清隆(副会長)
綾 喜久子(副会長)
岡井 喜代(事務局)
川添 隆生(岡山玉翠会会長)
辻 孝夫(事務局)
入船 健一(徳島玉翠会会長)
渡辺 謙(事務局)
佐竹 勝利

高 中 部 会

理 事

植田 稔・丸山 修・
加藤達雄・日下千智・
畠山武史・大竹哲也・
三宅洋三・岡 親隆・
九富彰三・久米房之助

監 事

荻淵 昭

晩 翠 部 会

理 事

湯浅美恵子・伊藤卓子・
真部隆子・形見米子・
尾形カズエ・高岡美知子・
谷本文子・大久保和子

監 事

安達恵美子
森川輝男・福家 正・
常谷忠克

監 事 前田道正

高 高 部 会

理 事

櫻村和子・太田英章・
今澤暉子・鈴木邦彦・
増井邦彦・古竹久雄・
前谷亮三・白井 治・
植谷敬昌・竹林治朗・
谷森勉・小松重貴・
豊田章二・徳永孝明・
国東照美・吉岡哲朗・
村井恵子・中山隆司・
中村秀明・石橋真知子・
中村谷年成・松本敏裕・
小島英夫・岡島賢治・
石田謙作・中村谷百則・
灘波博司・中山千晶・
亀井正好・佐々木浩司・
加藤安一郎・稲田耕一・
森川輝男・福家 正・
常谷忠克

監 事

前田道正

創立 110 周年が近づいています。

平成 15 年は母校高松高等学校の創立 110 周年です。

こんな事を考えています。

- 創立100周年の後の10年間を中心とした記念誌を発刊します。
平成14年10月、購入希望調査をします。
- 高松文化祭で110年の歴史を紹介、展示します。
期日：平成15年9月6日(土)、7日(日)
【お願い】高中(昭和15年当時)と県女(昭和5年当時)の校舎の
模型を作成中です。その頃の校舎の外観や様子がわかる写
真等、また、高中、県女の制服や帽章(高松の帽章も)を
お持ちの方は、高松玉翠会事務局までご一報ください。
- 記念祝賀会を行います。
期日：平成15年9月6日(土)
会場：全日空ホテルクレメント高松
会費：10,000円
平成14年10月、出席予定希望調査をし、平成15年7月、正式に
出席調査をします。
- 玉翠会員名簿を発刊します。(予定15年7月31日)
5年に1度の発刊です。平成14年10月、予約申込み調査をします。
※今後の情報は「高松高校のホームページ」をお開きください。
<http://www.kagawa-edu.jp/takah01>

代 議 員

高中部会

堀池 利夫・三木 忠雄・川西 源吉・前川 武照・神尾隆助・
津原 幸孝・香川 和夫・村尾 穂積・森 慶太郎・国宗 武男・
乾 隆・久能 長之・大島 久保・竹内 久子・小夫修助・
小西 行三・内山 久夫・渡見正太郎・多田謙夫・成瀬 裕・
田村 弘・古川 静夫・川田 純一・竹内 正実・川 一成・
原内 平・松野 隆明・渡辺 弘・泉川 孝平・山田 幹夫・
原田 進木・正夫・渡辺 典雄・塩田 良弘・黒田 昌男・
山口 善章・林 政次郎・増田 照夫・谷川 一典・河野 猛・
水野 直樹

高 高 部 会

岸本 哲代・久保田代 富高・千代 小林・キヨ 明石しえ・
鎌野 順・秋山智恵子・岡内 一江・旭 登子・入谷 晃代・
筒井おる・綾田 相江・杉内 武・逸見 静子・国宗 博子・
逸見 光子・小山トヨ子・河田 スマ・鈴木タツエ・穴吹 武子・
杉山 清子・渡辺 綾子・鎌田 静子・香月 フミ・川西 美代・
丸尾嘉孝・中村美恵子・久米八寿子・馬場 幸・中田美枝子・
平井 貞子・植田 澄子・藤田 幸子・笠井 愛菜・小川 幸子・
高木 敬子・山田 恵子・清田 清子・桜又ミエ・岩井美智子・
川瀬 信子・秋山多美子・荒木 聡子・上原美智子・加藤 鎮子・
佐藤 恭子・神谷 順子・松田 郁子・西尾 信子・伊藤 悦子・
矢野坂重子・岡部 澄子・水野 綾子・木村 恒代・石原 翔子・
松延 健一・木下 雅子・藤野 繁津・斎藤 雅泰・江見 寿雄・

高 高 部 会

池田 清・岡村 幸雄・佐藤 嘉子・榎原 安博・岡 修二・
平井 二郎・河西 夢子・難波 文子・入倉 満子・孝正・
小田 銀子・石津 則子・福田 隆裕・関谷 聡子・鶴川 舜・
植田 京子・熊 善郎・中村 敬子・真鍋千算子・今村 慶夫・
増田 正孝・松原 剛・秋山俊子・中野 真子・岡崎 勝・
森田 勝彦・早川美智子・関 智恵子・大林 義和・太田 賢・
森田 幸子・日野 弓枝・岡崎 進・上野 文夫・八代 紀子・
横井 伸子・塚本 修・佐竹 睦子・石原 英雄・加藤 祥子・
高橋 孝・安藤 晋一・笠井ミヤコ・谷本 朋子・中谷多郎・
鎌田 基志・岡田佳代子・飛田 久子・山内 康生・後藤 伸雄・
三宅昭代子・新藤 勝利・廣沢 品・森川 信子・小松 綾子・
大和田昭邦・尾崎 正澄・岡 由利子・濱本貴美子・角田 朝朗・
真屋 正明・西尾 道子・占 恵子・濱本 貴子・香西 幸夫・
牟礼 明・松山長志子・平井 太資・海部 美・土河 嘉代・
川西 美子・池田 紀治・上野 準一・堀家みどり・森 佐知子・
小河 雄雄・井上 哲・重松佐栄子・糸原 敏恵・篠島 幹雄・
横原 賢治・穴吹 恵美・神内 幾代・鎌田 郎・岡子 泰・
飯間 康代・長崎 佳子・嶋村 昭・松山 哲也・寺師 明美・
小坂 貴子・岡 冬・上居 謙治・久松 敬子・修理 伸一・
佐伯 典久・福田 安伸・久保 睦子・久松 敬子・修理 伸一・
横山 忠則・大西 夢子・浜崎 泰子・神内 正信・和田 知文・
稲本智世子・橋本 映美・三島 義之・新名 孝司・北条とみ・
大石都子・吉田 守秀・岸田 光成・吉川 正美・松下 節子・
松延 健一・木下 雅子・藤野 繁津・斎藤 雅泰・江見 寿雄・

高 高 部 会

石原 準子・松岡 利佳・石濱 英暢・藤沢 昌弘・高木 美穂・
出羽恵美子・小島美穂・野口 宏二・門脇 慎人・川井 幸・
風宮 貴子・宮脇 森・藤原太郎・小野山千津・北島 桐子・
前野 勝彦・坂本 耕一・久米寿美子・高木 美香・下地 崇弘・
大倉 恵美・半田 富美・藤沢 隆一郎・小野 正博・富田 弘恵・
簡井 智子・山口 敦・藤原 隆司・桑島利江子・大門山美子・
池田 康之・三好 啓介・木下 品・三崎 恵奈・滝口 英雄・
富岡 貴美・矢野葉子・山下 徹三好・幸 千賀排・郎・
前谷 季妙・世俊 賢一・井上 直人・西谷 晴子・岡田いずみ・
西口 潤・神内 克知・小松 志保・伊手和洋・渡辺 光明・
西口 園恵・河原 章弘・山上 佳樹・熊 宏美・大野 明美・
大橋 弘毅・山下 徹・串田 幸・清田 洋子・坂本 明彦・
香西 晴之・西岡佐知子・朝倉 理映・清水 洋平・赤崎 哲也・
松本 順子・今西 神子・松岡 敬三・鎌田 長明・川東 昌子・
長崎 真紀・長野 篤・高橋 優介・細川 恵子・西村 明香・
亀井 寿安・渡辺 邦安・糸原 美み・次田 紗巳・横山 勇介・
岡田 陽平・石原ゆかり・渡谷 光子

高 高 部 会

安倍ツタエ・頼富優子・佐々木亮子・川口 光孝・松崎 善恵・
中村 幸夫・藤沢 康良・高木 政光・河端 豊・野中 日勝・
斎藤 幹雄・大森 悦治・山 敏夫・松本 正義・松本 修・
大見 弘弘・沢田 昭一・田淵 薫川東 孝俊・塩田 政則・
市原 武・香西 悦子・和木智智子・長尾美智子・神田アサエ・
武田 美上・田 昇・青木 和也・佳吉 栄司・玉木 勲生活情報から世界の情勢まで
今を伝えるRNC
ワイドニュースプラス11部 16:56~
16:56~ エリアのニュース
17:00~ 全国ニュース2部 17:54~
17:54~ 全国ニュース
18:20~ エリアのニュースその日のメインニュース
をより詳しくより解りや
すく、記者リポート、キャ
スターリポートをとりまぜ
ながら掘り下げお伝え
します。RNC
ワイドニュースプラス1
毎週月曜~金曜日 夕方4:55~
放送中ます/ます/
RNC
西日本放送
<http://www.rnc.co.jp>

平成 13 年度 玉翠会会計収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
1 玉翠会入会金	1,125,000
2 玉翠会会費	6,854,060
3 広 告 料	400,000
4 雑 収 入	14,877
5 前年度繰越金	34,250,323
合 計	42,644,260

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 本部運営費	4,115,925
(1) 玉翠会運営費	653,658
(2) 慶 弔 費	315,210
(3) 玉翠会報発行費	1,547,057
(4) 職 員 給 与	1,600,000
2 支部運営費	1,123,040
(1) 支部総会お祝	400,000
(2) 支部総会旅費	723,040
3 卒業生記念品料	123,879
4 学 校 助 成 金	1,500,000
5 備 品 充 実 費	161,070
6 教育基金へ繰入	1,620,000
7 退職積立金	200,000
8 予 備 費	0
9 次年度繰越金	33,800,346
合 計	42,644,260

平成 14 年度 玉翠会会計収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
1 玉翠会入会金	1,115,600
2 玉翠会会費	7,000,000
3 広 告 料	400,000
4 雑 収 入	14,054
5 前年度繰越金	33,800,346
合 計	42,330,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 本部運営費	6,500,000
(1) 玉翠会運営費	900,000
(2) 慶 弔 費	400,000
(3) 玉翠会報発行費	3,600,000
(4) 職 員 給 与	1,600,000
2 支部運営費	1,400,000
(1) 支部総会お祝	500,000
(2) 支部総会旅費	900,000
3 卒業生記念品料	150,000
4 学 校 助 成 金	2,000,000
5 備 品 充 実 費	200,000
6 教育基金へ繰入	1,650,000
7 退職積立金	200,000
8 110 周年記念事業特別会計へ繰入	5,000,000
9 予 備 費	250,000
10 次年度繰越金	24,980,000
合 計	42,330,000

平成 13 年度 玉翠会事業報告

月	日	曜	事 業 名	会 場
5	25	金	会計監査	5 階会議室
6	1	金	玉翠会会長・副会長会	校長室
6	3	日	京阪神晩翠会総会	阪神百貨店
6	16	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	5 階会議室
6	29	金	玉翠会・PTA 合同歓迎会	高松国際ホテル
7	10	火	玉翠会報第 22 号発行	
7	14	土	東京玉翠会総会	東京プリンスホテル
9	15・16	土・日	第 51 回文化祭	高松高校
10	13	土	関西玉翠会総会	ホテルニューオータニ大阪
10	21	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
10	26	金	先輩講演会	体育館
12	8	日	徳島玉翠会総会	グランドエクシブ鳴門
2	25	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
3	7	木	卒業式	体育館

平成 14 年度 玉翠会事業計画

月	日	曜	事 業 名	会 場
5	20	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
5	30	木	会計監査	5 階会議室
6	2	日	京阪神晩翠会総会	阪神百貨店
6	8	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	5 階会議室
7	1	月	玉翠会・PTA 合同歓迎会	リーガホテル
7	10	水	玉翠会報第 23 号発行	
7	13	土	東京玉翠会総会	東京プリンスホテル
9	6	金	キックオフパーティー	全日空ホテルクレメント高松
9	7・8	土・日	第 52 回文化祭	高松高校
10	19	土	関西玉翠会総会	南海サウスタワーホテル
10	27	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
11	8	金	先輩講演会	体育館
11	17	日	徳島玉翠会総会	ホテルクレメント徳島
3	7	木	卒業式	体育館

創立 100 周年記念玉翠会教育基金 平成 13 年度収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
1 玉翠会会計より繰入金	1,620,000
2 預 金 利 息	7,051
3 雑 収 入	5,000
4 前年度繰越金	21,791,547
合 計	23,423,598

〈支出の部〉

科 目	金 額
1 奨 学 金	1,512,000
2 教 育 活 動 費	70,000
3 予 備 費	0
4 次年度繰越金	21,841,598
合 計	23,423,598

創立 100 周年記念玉翠会教育基金 平成 14 年度収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
1 玉翠会会計より繰入金	1,650,000
2 預 金 利 息	8,402
3 雑 収 入	0
4 前年度繰越金	21,841,598
合 計	23,500,000

〈支出の部〉

科 目	金 額
1 奨 学 金	1,650,000
2 教 育 活 動 費	200,000
3 予 備 費	100,000
4 次年度繰越金	21,550,000
合 計	23,500,000

「高松高校で学んだもの」
毎年恒例となっている先輩講演会が、今年度は平成十二年十月二十六日に元オリンピック体操選手の内藤和子さん（昭和二十九年卒業）を講師にお迎えして行われた。門脇さんは、本校卒業後、東京教育大学を経て日本大学、鶴川女子短期大学にご勤務され、現在も鶴川女子短期大学の教授として活躍されている。その間、体操選手としてメダルも獲得し、オリンピック大会団体六位、ローマオリンピック



平成十三年 先輩講演会
門脇和子さん（旧姓曾我部）を迎えて

講演の最後に、高松高校のモットーである「文武両道」について、「重い言葉ではあるが、自分がやることを考えながら精一杯やってみよう」という独自の解釈を示してくださった。そして、

「先輩講演会」は、京都大学大学院経済学、地球環境学両研究科教授植田和弘氏（高松昭和45年卒）を講師としてお迎えし、11月8日（金）の午後、本校の体育館で行う予定である。

玉翠会寄贈関係

図書類

松浦三知子氏（昭和4年卒）

「海軍技術者たちの太平洋戦争」

脇和子氏（昭和19年卒）

「クリスマス・キャロル」

津島正弘氏（昭和19年卒）

「横光利一全集」、「大佛次郎ノンフィクション全集」、「日中戦争全3巻・朝鮮戦争全3巻・満州帝国全3巻」

重藤芳雄氏（昭和20年卒）

「向田邦子著作本83冊」

辻孝夫氏（昭和31年卒）

「自己免疫性肝疾患」、「自己免疫性肝障害の臨床」、「病める人の心を癒す」、「同門会誌第49号」、「B型・C型肝炎の病態と治療」、「よくわかるC型肝炎治療の最新情報」[Molecular Biology and Immunology in Hepatology]

山崎敏輝氏（昭和31年卒）

「まちづくりは国づくり」

岡内祐三氏

「村山壽子作品集1・2・3」[村山氏大正9年卒]

高四十六回生

「卒業六十周年記念文集 余生集後」

高松高校体操部・ダンス部

「桶の下で 青春の軌跡」

木村育氏（昭和35年卒）

NHK高松「四国羅針盤」（出演VTR）、NHK「今日も一生懸命」（出演VTR）、NHKラジオ「深夜便」（出演テープ）、RNCラジオ「人生てんこもり」（出演テープ）

林康子氏（昭和37年卒）

「オペラ・フォート・グラフィック 世界を駆けた二十年、そしてこれから」、「林康子 恋を歌う」（CD）

福永玲子氏（昭和27年卒）

「女性のためのアメリカ医療ガイド」

溝淵利博氏

「讃岐歌謡史」

東京玉翠会

「關外歴史文学集13巻」、「図説 世界文化地理大百科3巻」

関西玉翠会

パソコン等

支部会だより

『温故知新』 『世紀新たな陽に映えて』

東京玉翠会

私たち東京玉翠会は、平成十三年七月十四日(土)、東京プリンスホテル「鳳凰の間」において第十九回総会を開催いたしました。今回の総会幹事は、恒例に従い、高松卒業後二十五年目に入つた昭和五十二年卒業生が担当しました。二十世紀最初の総会テーマは「温故知新・世紀新たな陽に映えて」。危ぶまれた天気も、ちょうど総会の三日前に梅雨明けが宣言され、当日は真夏のような快晴に恵まれました。三十五度を越える気温にもかかわらず、九百五十名超の多数の会員の出席があり、前年同様の大盛況となりました。

総会には、玉翠会本部から多田野会長、母校高松高校からは秋山校長先生はじめ現役の先生方、かつて私たちがお世話になった懐かしい恩師の先生方、東京玉翠会先輩でもある真鍋香川県知事(第一回幹事)、増田高松市長等多数の来賓のご出席を賜りました。

辻東京玉翠会会長の挨拶で始まり、総会議事も滞りなく終了、真鍋県知事の乾杯の首領を合図に懇談会に入りました。出席者は「さぬきうどん」や「てんぷら」等ふるさとの味を楽しみながら、懐かしい同窓生や恩師の先生、先輩、後輩達との再会に話が弾みました。

懇親会のアトラクションは、地元香川県高松市出身でマリナー奏者の、臼杵美智代さんによる郷土の石「サスカイト」コンサート。誰もが子どもの頃、一度は手に触れ、遊んだことのある「かんかん石」の奏でる美しい音色は、出席者一人一人の心と体の中に染み込んでいくようでした。最後の曲「ふるさと」が演奏されると、皆知らず知らずのうちに「うさぎ追ひし」と口ずさんでおり

ました。演奏終了後は、千人近い会員で埋め尽くされた広い会場が、惜しみない拍手と「フラボー」の大合唱の渦に包まれました。

今年は、初めての試みとして東京玉翠会新入会員の紹介も行いました。三月に高松を卒業したばかりの初々しい十三人の後輩達は、大勢の先輩を前にして、若干緊張しながらも、少しも臆することなく、堂々と自己紹介をし、その後のお楽しみ抽選会のお手伝いも立派にこなしてくれました。

次は次年度幹事の紹介です。平成十四年はいよいよ第二十年という節目の総会の年にあたります。その大事な総会の幹事となる昭和五十二年卒の紹介と、彼らによる、壇上での力のこもった決意表明がありました。

そして最後は、応援団とプラスバンド部OBの伴奏で、出席者全員による校歌と応援歌の斉唱です。応援団の華麗なエールの指揮のもと、会場の盛り上がりは一気に頂点に達しました。特に、県立高松高等学校の校歌斉唱には、わざわざ大阪から駆けつけた、昭和九年から十二年まで同校で音楽の先生だった河上聖野先生も加わりました。

先生の、昔愛わらぬ若々しい美声と、かつての教え子達との校歌大合唱には、晩業会会員(同校卒業生)ならずとも深い感銘を受けました。

今回の総会幹事としての活動は、確かに大変でしたが、一年間の準備活動を通じて、多くの素晴らしい先輩に出会い、多岐にわたるご指導を仰ぐことができました。また、同期の友情の輪もさらに深まり、より大きく強固なものになりました。これは我々の一生の財産となりました。ただ、当会も第一回から数えてはや二十年が過ぎ、総会のあり方に対する議論が始まっていることも事実です。これについては皆で意見交換し、より現状に合った総会のあり方を模索しなければなりません。

本会の開催に際しましては、玉翠会本部、各支部、高松の同期、その他多数の皆様にご多大なご協力をいただきました。特にサスカイトを無償でご提供頂いた上に、夜を徹して香川からの搬送車に同乗された宮崎野子様に、改めて厚く御礼申し上げます。

最後に、母校並びに玉翠会本部、各支部の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

岡山玉翠会第二十三回総会は、平成十三年十月二十一日にアークホテルに於いて盛大に開催されました。今回は来賓として昨年同様真鍋武紀香川県知事、塚本修県議会副議長と新しく岡山香川県人会会長に就任された山下一盛弁護士がご出席下さい、創立以来最高の出席者で盛況を極めました。

過去最高の出席者で賑わう

玉翠会

辻孝夫会長は開会挨拶で、このところ年々参加者が増加して内容も充実した総会になったことに対して御礼と謝辞が述べられました。

真鍋知事からは、「サポーター高松」のシンボルタワーの建設、高松自動車道全線開通、生きがいづくり支援拠点の殿堂建設など郷土の現況と今後の展望が話されました。

秋山忠校長先生は、母校の近況報告について母校創立百十周年を控えて記念事業などを実施する準備ができました。すっかり元気になられた多田野久会長からは母校及び玉翠会発展のために会員に対して引き続き協力の要請がありました。

第二十四回岡山玉翠会総会は十月二十七日に、昨年と同じくアークホテル岡山で開催することが決定しております。一人でも多くのご参加をお待ちしております。詳細については事務局へお問い合わせください。

最近では完全に通勤、通学圏内になった香川県ですが年一回の玉翠会で、お互いに母校の活躍と発展を喜びあい、讃岐弁を気にしないで青春を思う存分に懐古できる集いに定着してきました。

県人会組織の少ない岡山県では岡山香川県人会は貴重な存在です。その会長に玉翠会から山下一盛さんが就任され、各方面から注目と大いに期待されています。今後は県人会の主要メンバーとしての運営に積極的に協力してゆきたいと考えております。

集い！語り合おう！ 21世紀の仲間達！

関西玉翠会

関西玉翠会第八回総会が、平成十三年十月十二日(土)、ホテルニューオータニ大阪(翠鳳・鳳凰の間)において開催されました。

関西玉翠会では、平成六年「関西玉翠会」と名称を改めて、「関西玉翠会年次幹事会」を中心とした組織的な運営を行うと共に、卒業後三十二年目の年次幹事が各年度の総会の企画・運営を行うようになりました。今回



2001年 関西玉翠会 総会

「集い！語り合おう！21世紀の仲間達」のも仲間達が世代を越えて集まり、職務・環境を離れて語り合うことにより、時を越えたと心の繋が

りや新しい出会いと感動が生まれる総会となりました。出席者総数は、三十三名(役員と来賓十四名、会員三十八名)となりました。ご支援、ご協力して頂きました多くの関係各位に感謝申し上げます。

総会では、例年通り総会議事に引き続いて懇親会を行いました。今回の総会では、四十五年卒業生から、特に、関西玉翠会の運営と活動状況について報告を致しました。

この結果、昨年度(約五〇〇名)を大きく上回り、約一三〇〇名の会員から年会費を納入して頂きました。これに伴って、会報発行部数を一五〇〇部に増刷して、多くの会員の方々に情報を提供することができるようになりました。さらに多くの会員の方々に、関西玉翠会の活動に参画して頂くためには、今後必要となる提案や改革が必要と思われる。毎年の総会担当幹事が中心となり、一歩ずつ推し進めていくことが重要と思われる。この改革の精神こそが、私達、高松及び高松県女の伝統ではないでしょうか。

懇親会では、例年好評な「讃岐うどん」、「てんぷら」及び「醤油まめ」を故郷「香川」から取り寄せ、出席者に喜んで頂くため、故郷の味とお酒、旧友の元氣な顔と声、秋山校長先生からの母校の話題、応援団の演技と大鼓の音など、例年通り楽しい懇親会となりました。さらに、四十五年卒業生の河合さんを中心



2001年 関西玉翠会 総会

にした「オーロラ」有志による琴伝流(きんでんりゅう)の大正琴演奏を楽しんで頂きました。

関西玉翠会が今後も活力ある活動を継続するために、玉翠会本部、他支部、高松高校の交流を密にするために、会員相互の交流を活性化することが重要です。関係各位のさらなるご協力をお願い致します。

最後に、関西玉翠会晩翠部会の状況について報告



徳島玉翠会

求められる「新機軸」

玉翠会の皆様、お変わりありませんか？
平成十三年の徳島玉翠会は大変な変動を迎えました。

変動の第一点は前会長の逝去です。昨年の本紙で「紹介しましたように、前会長の磯部淳一氏は、平成十二年の総会で会長に就任されて間もなく体調を崩され、十三年五月に辞任のやむなきに至りました。しかしその後病状は一進一退の経過をたどり、昨秋お亡くなりになりました。八月に開催した打合せには元氣なお姿を見られたので、総会には出席されるものと期待していたのに、帰らぬ人として総会で黙祷を捧げる対象になってしまったことは、返す返すも残念なことでした。

徳島玉翠会の要人でもう一人急逝された方がいます。事務局員として名簿の整理や宛名書きを担当してくださった徳永悦郎氏です。三回の準備会のうち、一回目まで積極的に協力してくれていた同氏

が十一月になって急に調子が悪くなり、十二月に開催した総会には欠席。その後一月に入っても回復の兆しなく、二月に他界されたという、あまりにも急転直下のできごとでした。享年四十八歳、鳴門教育大学教授に昇任されたばかりの新進気鋭の逸材を失ったことは計り知れないほど大きなダメージでした。

さて平成十三年度の徳島玉翠会総会は趣向を変えて「グランド・エクシブルフ場兼リゾートホテルで開催されました。瀬戸内海国立公園を一望ののどろに足下することのできるすばらしい環境にありま

す。ところが「人集め」の手段として企画したゴルフコンペの申込者がなんと四人！これではコンペになりません。十二月という忙しい時期にのんびりゴルフする気分にならなかったものも推定されます。結局ゴルフは中止し、総会とパーティーだけを実施することになりました。

「それなら地理的に便利な会場で行った方がよかった」と反省しています。パーティーには、高松から秋山校長、岩部脇・大西・南副会長ら七人が本



徳島玉翠会総会
平成13年12月8日

部を代表して参加して下さったのははじめ、三々

会（高松高校昭和三十三年卒の同窓会のメンバー十数名が大挙して「友情参加」してくれました。

これは、磯部会長の後を受けてお引き受けした私（渡邊謙）をバックアップしようと呼びかけてくれて計画されたものです。

おかげで写真で見られる通り賑やかな総会を催すことができました。

ところで、徳島県内に住む玉翠会の会員数は五百人に上りますが、案内に答えて参加してくれる人の数はもうひとつづえ

ません。昨年度のように「友情参加」に頼ってばかりもいられません。IT（情報処理技術）を解説する講習会などを併行して開催したら人集め策

になるのではないかと、な

どと考えたりもしていますが、さてどうでしょう

か。

高中第四六回生同窓会報告

昭和十六年三月卒業（第四六回生）公式最後のつどいが平成十三年十月十七日（水）午前十一時半からホテルニューフロンティアで行われた。



東京から五名、大阪、愛媛から各一名地元から二十八名の計三十五名の参加があった。はじめに不幸にして散華された物故者の慰霊祭をして、霊前に全員写真撮影した。別室に移動して懇親会となり、六十周年記念誌

同窓会だより

卒業五十周年記念同窓会

「昭和二十六年三月高松高校を卒業した私達（高高二七会）は、本年（平成十三年）卒業五十周年を迎えるのを機会に記念同窓会を去る七月十四日（土）午後、サンポート高松に新築された全日空ホテル・クレメント高松で開催しました。当日は、北は山形、南は福岡を始め、全国から旧友百六十八名（男七十六名、女九十二名）が参集し、平塚学・加藤操両先生を

高高二七会

卒業五十周年を記念して
母校に寄付

去る五月二十一日、「高高二七会」の代表の今澤、太田、斎藤の三氏が本校を訪れ、現金三万円と、富士山の絵柄の陶額のご寄付をいただいた。「高高二七会」は、高松高校を昭和二十七年に卒業された先輩方の親睦会として、約二七〇名の会士で、卒業五十周年を記念して、約二七〇名の方々に、同窓会が、当時の恩師や現在の講師校長をまじえて盛大に開かれ、さらにそれを記念して、母校へのご寄付が実現した。

昭和二十七年卒業生は、新制三年目の学年であり、男女共学にもある程度慣れてきた学年であった。うが、異世代時代からの伝統で丁寧な清掃する女子に対し、高松のパンカラの気風を残す男子は荒っぽく困ったものだったというお話も伺った。また、終戦後の混乱は続き、校舎も旧県女の現在の校地と現工芸の高校の校地に分かれ、授業によつて移動するなど大変だったようだ。食料や衣料の供給も十分ではなく、テニスの部活動も、普段の練習



ステキだな。
人と自然の「ふれあい笑顔」があふれる街。

人と人、人と自然がふれあいながら、
明日の夢を育ててゆく。
そんな明日の街づくりへの歩みを
いつまでも地域の皆様とともに。

BARBAPAPA
© 1995 Annette Tison and Talus Taylor
All rights reserved. Licensed by Sony Plaza Co., Ltd., Japan

いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行



今年度から新たに、学問・芸術文化等の各分野の第一線で活躍されている方々(主として本校の卒業生)を講師としてお迎えし、やや専門的な内容の講演会「玉翠グローバルアカデミー」(GGA)を行うことになりました。

このGGAには、高松生が学問・芸術文化等についての視野を広げ旺盛な知的好奇心をもつこと、自分の進路をよく考える機会をもつこと、講師のものの見方や考え方を学ぶことで自分自身の生き方を考えることなど様々なねらいがあります。

今年度は、企画・運営を生徒の有志と教職員が協力して行い、できるだけ有意義な講演会になるよう工夫したいと考えています。

GGAは、香川県教育委員会が創意工夫に満ちた学校づくりの推進等のために実施する「平成十四年度パワーアップハイスクール推進事業」の対象になり、支援を受けています。

また、この講演会には、高松生や同窓生の皆様だけでなく、保護者、地域の中学生・高校生、一般の方々にも参加を呼びかける予定です。

今年度、GGAの講師としてお迎えする方々と実施予定日は次の通りです。

九月二十八日(土) 三木 浩一氏
十二月七日(土) 鶴尾 隆氏

十月十二日(土) 小玉 英雄氏
十一月八日(金) 植田 和弘氏
十二月七日(土) 鶴尾 隆氏

また、今回設けました「あの先生は今・・・」のコーナーで取材してほしい先生のリンクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はFAX、電子メールでお願いいたします。

玉翠グローバルアカデミーの創設

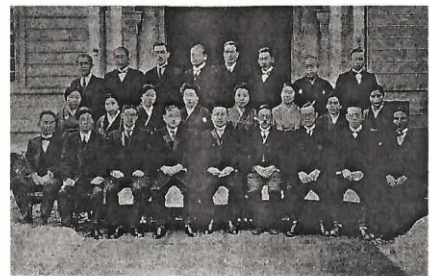
今年の桜は一気に咲いた。市街を縦横に走る街路樹の桜並木です。国立に住みついてもう三十年、直径十厘米位だった若木が今は三十五センチ程の老木である。この時節がこの街の一番華やかなりし頃と云う。此の桜を果して来年も見ることが出来るかの感慨しきりです。八十七年の歳月の経過の早さに今更の如く驚きます。

私を育ててくれた高女時代は僅か五・六年(補習科を含め)だが、此の時代に得たものは大きく、誠に至福の時だった。昭和六年頃からはもう満州事変が始まり、日中事変、第二次大戦へと長い戦争に突入、敗戦、続いた戦後は人一倍の過酷な苦勞を享受した。それでも小学校以来十一年皆勤の頑健な身体と修身で叩き込まれた「身を殺して仁を成す」の精神的鍛練に支えられて超えられたと思うのだ。

兄弟五人、私と妹、兄嫁弟嫁甥三人は皆高女、高女、高女に当然の様に世話になった。そして玉翠会員という訳です。在高中の大方の年月は晩翠会の幹事で「雁の便り」という級友の近況が編集され、年一回タブロイド版で発刊されていてその原稿作り、最初の

母校の傘のもとで

昭和6年卒(県女)鎌田三恵子



昭和六年卒業時の恩師、高松高女正門前にて

校舎改築の折は一口十円の寄附金集めやクラス会の世話などして、上京以来四十年余も陰乍ら東京支部と関わりつて来た。年一回の晩翠会総会も楽しいものでした。当初二十数名いた同級会も今は会費九名分の納入です。年若い全く惨憺たるものとなりました。

春は瀬戸内の鯛、琴平辺りの掘り立ての筍、秋は松茸を焼松にすき焼にと存分に味わいました。海の幸山の幸を共有してグルメに育った私達、又特殊な高松弁でしゃべり合った仲間です。末永く仲良くやって行きましよう。輝く伝統ながい玉翠会の、益々の御発展を願いつつ拙筆いたします。僅か一枚見付かった当時の恩師の方の記念写真を添付させていただきます。

(第十九回東京玉翠会総会プログラムより転載)



卒業生数

(平成14年3月)

1	高松中学校	6,643名
2	高松高等女学校	6,836名
3	高松高等学校全日校	29,486名
4	高松高等学校併設中学校	1,316名
5	高松高等学校定時制(本校)	1,387名
6	高松高等学校定時制(直島分校)	297名
7	高松高等学校通信制	2,021名
計		47,986名

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町3丁目1番1号
電話 (087) 831-7251代 FAX (087) 831-0010
<http://www.kagawa-edu.jp/takah01>

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを新しく設けたいと考えております。

I 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

II 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、今回設けました「あの先生は今・・・」のコーナーで取材してほしい先生のリンクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はFAX、電子メールでお願いいたします。

人と暮らしを潤す 「幸せな食創り」。



食べる喜び、食の楽しさを満喫し、健康な日々を過ごしていただけるよう、「幸せな食創り」を企業理念に活動する日本ハム。ハム・ソーセージをはじめ、いつも新鮮なおいしさがあふれる商品を通して、みなさまひとりひとりの幸せな食卓づくりをお手伝いしていきたくと考えております。

